



2020-21年度 RI会長; ホルガー・クナーク / 地区ガバナー; 高瀬 英夫
加古川ロータリークラブ会長; 城 貴博 / 幹事; 久後 勇人
〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口800番地 加古川商工会議所会館5F
TEL 079-423-0661 FAX 079-423-0677 e-Mail kakogawa@rotaryclub.ne.jp

令和2年10月20日(火) 晴 No. 14



▲ 会長挨拶



▲ ポールハリスフェロー表彰



▲ 芝本米山副委員長



▲ 張主善さん卓話

会長の時間

会長 城 貴博

今月は米山月間です。皆さんご存じのように、「ロータリー米山記念奨学事業」は、日本で最初の東京ロータリークラブの設立に貢献した、米山梅吉氏の功績を記念して出来ました。

最初は一ヶ月分のたばこ代を節約して留学生を支援するという事で1952年に発足しました。

当初はアジアの学生が対象でしたが、現在は将来母国と日本との架け橋となって、国際社会で活躍する優秀な留学生を支援する事を目的にしています。

今では、外国人留学生を対象とする民間の奨学金では国内最大規模で、これまでに累計で世界129の国と地域からの留学生2万2000人余りを支援しています。

他の奨学金と比較しますと、一番大きな特色は世話クラブとカウンセラー制度が挙げられます。特に、カウンセラーは奨学生の日常の相談役となり、留学生在が心豊かなものとなるように配慮された制度です。

また、元米山奨学生と現役奨学生によって組織される「米山学友会」もあります。これ

は、学友が自主的に運営しロータリアン及び米山奨学会が協力、支援しています。日本に33、海外に9、計42の学友会がありまして、日本と世界を結ぶ、まさしく「懸け橋」となっております。

本日の卓話は、米山奨学会委員会担当です。ゲストとして米山奨学生のチャン・ジュソンさんをお迎えしています。よろしくお願いします。

幹事報告

- 1) 地区ローターアクト小委員長よりローターアクトの広報誌を回覧します。
- 2) 下記日程の例会について、例会場を加古川プラザホテル2階鹿児島の間に変更して行います。
2020年11月17日(火) ロータリー財団ゲスト卓話
2021年 1月19日(火) 優良職業人表彰
2021年 2月 9日(火) 船原会員卓話
- 3) 来週27日(火)の例会の職場例会は、コロナ禍のため例会場でのゲスト卓話となります。よろしくお願いします。

ニコニコ



- | | | | |
|---|---|---|-----------------------------|
| 省 | 略 | ☺ | チャン ジュソンさん、本日の卓話よろしくお願いします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 張主善さん、本日の卓話よろしくお願いします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 張さん卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | チャンさん、今日の卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 米山奨学生、張主善さん、本日の卓話楽しみです。 |
| 省 | 略 | ☺ | チャンさん、卓話楽しみにしています。 |
| 省 | 略 | ☺ | テーブルの花いただきます。 |

以上7件 ¥10,000-
本年度累計¥536,000-

出席委員会

- | | | | | | | |
|-----|---|----------|----------|-----------|-----------|--------|
| ☆ 今 | 週 | 会員数 75 名 | 出席 42 名 | 出席免除 16 名 | 欠席 17 名 | |
| ☆ 欠 | 席 | 者 | 省略 | | | |
| ☆ 前 | 々 | 週 | 会員数 75 名 | 出席 52 名 | 出席免除 14 名 | 欠席 9 名 |
| ☆ ゲ | ス | ト | 米山奨学生 | 張 主善さん | | |
| ☆ メ | ー | ク | 神崎RC | 10/15 | 桑田圭 | |

親睦活動委員会

- 例会場当番
10月27日(火) 鶴田、正木
11月10日(火) 福谷、桑田圭



プログラム委員会

本日10月20(火)	10月27日(火)	11月3日(火)	11月10日(火)
<p>ゲスト卓話 「私の人生における 日本での生活の 意味」 米山奨学生 チャン ジュン 張 主善さん 米山記念奨学会 委員会 担当</p>	<p>職場例会 ゲスト卓話 ワーク・ライフ・バランス推進の 取組はなぜ必要か？ ～「ウイズコロナ」時代の到来 を視野にいれながら～ (公財)兵庫県勤労福祉協会 ひょうご仕事と生活センター チーフコンサルタント 国本 豊泰氏 職業奉仕委員会 担当</p>	<p>休会(祝日)</p>	<p>新会員自己紹介 石井・潮見 担当</p>

モンゴルの環境危機に取り組む

ロータリー平和フェローがヤギ畜産農家たちの合意
形成を図り、適正賃金の確保や草原保護を支援

モンゴルでは、過放牧が原因でかつて肥沃だった草原の多くが砂漠化し、野生ヤギの畜産を生業とする人たちが苦境に立たされています。この環境問題はさらに、同地域における対立の激化にもつながっています。

ユ・ドンジュさんは現在、ロータリー平和フェローとして習得したスキル、そして持続可能な方法で生産されたカシミヤ製品を扱う Le Cashmere ブランドの CEO としての立場を生かし、過放牧の抑制に取り組みながら、競争ではなく協力しあうことで草原を保全するよう畜産農家に呼びかけています。

モンゴルでは、春になると自然に抜け落ちる野生ヤギの毛の外側の暖かい部分を使用し、厚みのある冬用コート売って生計を立てている世帯が数多くあります。この毛を手でとかし、カシミヤを作ります。

一方で、中間業者が多額のマージンを持っていってしまうため、農家はヤギの頭数を増やし、草原を拡大せざるを得ないのが現状です。しかし結果的には、過放牧と砂漠化が進み、畜産農家の生活が圧迫されるだけです。

ドンジュさんはかつて、韓国国際協力団 (KOICA) のボランティアとして活動していた頃に、この負の循環を目の当たりにしました。同時に、ボランティア団体や企業が木を植え、砂漠化による近隣諸国での黄砂の被害を防ぐ活動に取り組んでいることを知りました。ドンジュさんは、この問題を根本から解決し、畜産農家の収入を増やすことで、過放牧をせずとも暮らしていける環境を作りたいと考えました。



ユ・ドンジュさんと協同組合に所属する畜産農家

そこでドンジュさんは、畜産農家がカシミヤを十分な価格で販売できることを保証する協同組合を立ち上げました。また、一定規模の牧草地一カ所で毎年飼えるヤギの頭数を算出し、その数以上にヤギを放牧しないよう協同組合員たちが互いに合意するよう取り計らいました。

さらに、先代の畜産農家たちが実践していた「循環型放牧」を導入。これは、草原を 3 区画に分けて順番に使用することで、使用していない区画の草原を回復させるという方法です。

設立当初は 6 世帯しか所属していなかったドンジュさんの協同組合も、今では 292 世帯が所属するまでに成長しました。モンゴル政府も過放牧を減少させるさまざまな取り組みを主導していますが、ドンジュさんのアプローチは現地の農家にとって利益確保の方法が明確であるため、政府主導の取り組みよりも効果的で、地元有力者や協力団体もこの方法が地域全体を支えていると考えています。

このように現地の利害関係者と連携して地域の問題を解決する方法を、ドンジュさんはデューク大学(ノースカロライナ州)のロータリー平和センターで学びました。

「『平和』という言葉は漠然としていますが、もっと広く捉えるべき」とドンジュさん。「あらゆる問題には対立がつきものですが、解決策を見つけ、実際に解決するプロセスこそが平和構築なのです」

「あらゆる問題には対立がつきものですが、解決策を見つけ、実際に解決するプロセスこそが平和構築なのです」

KOICA でボランティアとして活動していたドンジュさんは、韓国のロータリー会員たちがモンゴルの森林再生を目指して立ち上げた「モンゴル緑化プロジェクト(Keep Mongolia Green Project)」の初期段階に携わりました。そこでドンジュさんが見たのは、現地の人たちと緊密に連携してニーズを把握し、プロジェクトを持続可能なものとするために奮闘するロータリー会員の姿でした。これに刺激を受けたドンジュさんは、ロータリー平和フェロースhipについて調べ、デューク大学のロータリー平和センターでのフェロースhipに申請して国際開発政策を学びました。

デューク大学には、社会起業家に特化したプログラムがあり、ビジネスを通じて諸問題を解決し、持続可能性を実現したいというドンジュさんの希望に沿うものでした。

このプログラムでは、専門家や活動家、研究者、元政府職員といった経歴を持つ学生たちが、日々、活発な議論を展開。ドンジュさんはその経験から、さまざまな視点を持つ人たちの合意形成(コンセンサス)を図るスキルを身につけました。

「ロータリー平和センターで出会った人たちから刺激をもらいました」とドンジュさん。「私がアフリカでビジネスを立ち上げたとき、アドバイスをくれたのも仲間の平和フェローでした。この仲間たちとは今もつながっており、彼らの活動からヒントをもらっています」

ロータリー平和フェロースhipでの経験が社会の支援にも役に立っているとドンジュさんは言います。多くの場合、平和フェローは各自の受入クラブと緊密な関係にあります。ドンジュさんの受入クラブも、活動に誘ってくれたり、デューク大学の卒業時には数時間も運転して卒業式にかけつけてくれました。「私にとって受入クラブの方々は米国での両親のような存在です。今でも連絡を取り合っています」とドンジュさん。

さまざまな背景を持つ他の活動家や専門家にも、ロータリー平和フェロースhipへの申請を呼びかけています。「あらゆる分野、あらゆるレベルで一斉にムーブメントが起これば、世界平和は実現可能です」とドンジュさんは話します。